

官公署等から

福生消防少年団員募集

福生消防少年団では、一緒に活動する団員を募集しています。

月1～2回程度の活動で、消防の仕事や火災予防について学び、初期消火訓練、応急救護訓練などを行っています。

また、地域のお祭りのパレードや老人ホームの訪問など、鼓笛演奏を通じて防火防災思想を普及する社会活動にも参加しています。そのほか、キャンプやクリスマス会などの楽しい団体活動もあります。

▼対象 羽村市・福生市・瑞穂町在住の小学校新3年生～中学校新3年生

●申込み・問合せ 電話または直接福生消防署防災安全係へ ☎ 552-0119
※随時募集しています。

地震から身を守る

「地震だ！まず身の安全」
昨年発生した東日本大震災では、震源地から遠い東京都内でも多くの被害がありました。

地震から身を守るために、日ごろの備えに加え、まず身の安全を確保することが大切です。

揺れを感じたときは、丈夫

なテーブルの下や、物が「倒れない」「落ちてこない」「移動してこない」空間に身を寄せて、姿勢を低くし、揺れがおさまるまで様子を見ましょう。

○問合せ 福生消防署防火査察係 ☎ 552-0119

春の家畜ふれあいデー

▼日時 3月24日(土)午前9時～30分／午後3時／会場 (公財) 東京都農林水産振興財団

(青梅市新町6-7-1) / 内容 牛の乳しぶり、のらぼう菜摘み(予定)、関係団体による乳牛コンテストなど

※都内農畜産物の販売も行います。

※車での来場およびペット同伴での来場は遠慮してください。

（参考）

●問合せ (公財) 東京都農林水産振興財団青梅庁舎 ☎ 0428-131-21771

施設から

保健センター

☎ 555-1111

平成24年度保健衛生事業日程表(乳幼児版・成人版)

広報はむら3月15日号と一緒に

平成24年度保健衛生事業日程表を配布しました。

お子さんの予防接種や健康

検診、成人を対象とした各種検診日程などを掲載しています。ぜひ、活用してください。

健康料理講習会

あつという間に完成！春野菜でごちそうおかず

～免疫力アップ&がん予防～

春は野菜がとつてもおいしい季節。ぱぱつと作れる簡単メニューで、春の恵みを取り入れましょう。

▼日時 4月18日(水)午前9時～30分／午後0時30分／会場保健センター／定員 30人(先着順)／参加費 300円(材料費)／持ち物 三角巾・工芸品／持ち物 タオルなど／指導者 NPO法人羽村市体育協会スポーツトレーナー／申込み 当日の午後1時50分～2時50分に直接受付前へ

※みそ汁塩分測定を希望する方は、みそ汁50mlを持参してください。
申込み 3月16日(金)から、電話または直接保健センターへ

申込み

3月16日(金)から、電

話または直接保健センターへ

ゆとろぎ

☎ 5570-10707

「レセプションリスト」養成講座受講者募集

「レセプションリスト」養成講座受講者募集

レセプションリストは、ホールでの案内業務などを行うスタッフです。

接遇について実習を交えながら学び、受講後は、ゆとろぎ

でのコンサートや演劇などの公演時に、実際に活躍します。

講師に、サントリリーホール

など一流の音楽ホールでサービスを行っているサントリリー・パブリシティ

サービスの方をお招きしま

す。(5月19日(土)を除く)
▼日時 5月19日(土)・26日(土)、6月2日(土)・9日(土)・16日(土) (全5回) 午後1時30分～4時30分／会場 ゆとろぎ講座室ほか／対象 市内在住・在勤の18歳以上の方で、レセプ

ショニストとして活動できる方／定員 20人(先着順)／費用(普通救命講習費) 1400円(救急技能認定証を持つない方のみ、別日程で行います。)／申込み 3月20日(火)午前9時から、電話または直接ゆとろぎへ

スイミングセンター

☎ 5579-13210

アクアビクス(水中エアロビクス) 4・5月

泳げなくても大丈夫。水の中で楽しく体を動かしませんか。

▼日時 4月5日(木)～5月31日(木)の毎週木曜日(祝日を除く) 午後3時～3時50分／対象 16歳以上の方／定員 35人(先着順)／参加費 市内在住・在勤の方：1回400円、市外の方：1回600円(いずれも入場料・保険料込み)／持ち物 水着・帽子・タオルなど／指導者 NPO法人羽村市体育協会スポーツトレーナー／申込み 当日の午後1時50分～2時50分に直接受付前へ

※車での来場およびペット同伴での来場は遠慮してください。

（参考）
●問合せ (公財) 東京都農林水産振興財団青梅庁舎 ☎ 0428-131-21771
●料費 プロン・筆記用具・健康手帳(持っている方)

勤の18歳以上の方で、レセプ

ショニストとして活動できる方／定員 20人(先着順)／費用(普通救命講習費) 1400円(救急技能認定証を持つない方のみ、別日程で行います。)／申込み 3月20日(火)午前9時から、電話または直接ゆとろぎへ

特集

Weave

～男女共同参画社会の実現に向けて～

東日本大震災発生から一年が経過し、被災地支援の方法もボランティアの活動も多様化してきています。今回は、市内にお住まいで3人のお子さんの子育て真っ最中の主婦、熊谷玲子さんに被災地でのボランティア活動についてお話を伺いました。

問合せ 企画課企画担当



インタビュー

子育てママの被災地支援体験談 ～ボランティア活動を通じて感じたこと～

くまがい れいこ
熊谷 玲子さん

夫：悟明さん・長女：咲良ちゃん（7歳）・長男：光騎くん（5歳）・次男：謙吾くん（3歳）の5人家族。

平成23年10月の3連休に宮城県山元町へボランティア活動に行ってきました。

被災地へボランティア活動に行こう と思つたきっかけは何ですか？

私が高校生のときに、祖母が阪神・淡路大震災を経験し、周りの人たちに助けられたこともあるので、今度は、自分ができることはないかという思いがありました。

東日本大震災後は、通園バッグなどを手作りして被災地へ送る活動に参加していたのですが、現地へ行つて活動したいという気持ちはずつとあつたんです。

そんな時、津波被害に遭つた家の泥の除去や洗浄、思い出の品の整理などを行う団体『スコップ団』の存在を知り、被災地へ行つて活動したいという気持ちが強くなりました。

でも、「やりたい」というこちらの気持ちだけで被災地へ押しかけて行つて、現地の人たちに迷惑をかけてしまつたら本末転倒だとも思い、なかなか一步が踏み出せなかつたのですが、スコット団の団長の「人助けに理由はいらぬ」という言葉に出会つたのが、現地へボランティア活動に行こうと思ったきっかけです。

被災地へボランティア活動に行くにあたつて、家族の理解とサポートが不可欠だと思いますが、どうでしたか？

子どもがまだ小さく、人に預けたことがほとんどないので、子どもと離れるのがとても不安でした。一番守るべきは家族なので、私が被災地へボランティア活動に行つている間に東京で大地震が起きたらどうしようという不安もありました。

夫に相談するときも、どんな反応かドキドキしたんですけど、「被災地に行つてきていい？」と聞くと「頑張つてこい」と言つてくれたので、行く決意をしました。

母にも相談したのですが、「行きたい」と思つてゐるなら行つた方がいい」と言つてくれたので、そんな母の言葉も被災地へボランティア活動に行くきっかけになりましたね。

宮城県山元町：避難指示区域に指定されていたため、壊れた家屋がそのままになつていました。



▲左から長女：咲良ちゃん・長男：光騎くん・次男：謙吾くん